

警察予備隊と校舎移転

昭和二十五年（一九五〇）六月に勃発した**朝鮮戦争**は、地方都市金沢の、しかも周縁に位置する本校にとっても無関係ではなかった。その年七月、マッカーサーの指令により吉田茂首相はポツダム政令の形式で**警察予備隊（自衛隊の前身）**の設置を制定、その**駐屯地**の一つとして**金沢高等師範学校、附属高等学校、中学校校地が**あてられるというのである。

この時の状況について小池善雄主事は『付高十年』の中で次のように語っている。「即ち、昭和二十五年の暮れも間近に迫った頃、突然我々の校舎は警察予備隊に明け渡さなければならぬことになったのである。移転先が希望するような所であるならもちろん喜んだであろうが、それがどう考えても好ましくない。そうなると創設の地に対する愛着の念や、それに警察予備隊というものの背後にひそむ力や思想に対する特殊な感情も入りまじって、強硬な移転反対となった。大学当局にも楯つく仕儀とも相成った。しかし、それも無駄であった。結局移転先の校舎を希望通りに改修することを条件として移転しなければならなかった。」

小池は、**県立二中跡**、現在の紫錦台中学の地への移転を希望していたようである。しかし、それはいれられず、**移転地は前校舎の向かい旧騎兵連隊跡地とされた**。しかも**野田中学と同居**である。同年十二月四日、小池主事から全校生徒に移転の説明。五日、校舎移転に開しPTA総会。六日移転作業開始。九日新校舎にて授業開始。国際情勢の変化の中で追いたてられたような移転であったのである。なお、野田中学との同居は、野田中学が現在地に移転完了する昭和三十年三月まで続いた。

移転後の昭和二十六年から二十七年は、小池主事を継いだ神力甚一郎校長、川西弘晃教頭らの尽力によって、本校のハード・ソフト両面の整備が進んだ時期である。神力は二十七年五月の創立五周年記念式典の式場でその抱負を語っている。「金沢大学の各学部の校舎が一応整備せられ、また付属小・中学校の校舎改築の計画が着々と進行しているのに、ひとり本校だけが旧兵舎のバラックそのままの殺風景きわまる校舎と、ほとんどゼロに等しい設備にいつまでも甘んじていなければならないのであろうか。また本校がただ大学入試の合格率のみを誇りとし、それに満足して、ヒューマニティーの開発と人格の完成という教育の理想の追求を怠ってよいであらうか。校舎の整備・設備の改善を始めとして、教育内容の刷新・充実、教科外の生徒指導の徹底、さらに生徒の自主的活動の積極化など、本校には今後なされるべきことが山積している。」

ハード面では校舎整備三カ年計画が立てられた。二十七年度が第一教棟と管理棟、これは九つの普通教室を一・五倍に拡張しペンキ塗装によって完成した。第二は理科などの特別教室の整備。これは難航した。第三は体育館の改築である。旧軍隊の雨天馬場を改造した体育館は昭和三十一年一期工事終了、三十二年完成した。校舎から百メートルばかり離れ、冬には明かり窓から雪が吹き込む不十分なものではあったが、五十万円もするグラウンドピアノが入り、五百人の生徒が一同に会合できる講堂としても使用された。

（金沢大学教育学部附属高等学校『附高五十年』一九九八年六月発行より引用）